



ロンドンオリンピック応援記

本日、7月30日早朝、福岡空港に職員に見送られながら向かいました。そう競泳に出場する松田丈志選手の応援のためです。今ロンドンに向かう飛行機の中でこれを書いています。

僕と松田丈志選手との出会いはもう2年近く前になります。

もともと松田選手のことは日本を代表する競泳選手、九州出身者、僕自信も高校時代に専門としていたバタフライ選手であること等で応援している選手でしたが、北京オリンピックで銅メダルを獲得したことで郷土の誇りである選手として認識していました。

そんな松田選手のことを北京オリンピックが終わり1年半近く経ったころ、新聞に松田選手がスポンサー探しに奔走しており、このままでは競技生活が困難な状況であることが連載されました。新聞を見た僕は、張先生、湯朝先生と「可能な範囲でなら応援できるかもしれない」と話し合い、当日中に秘書の阿部に松田選手が所属している東海スイミングクラブに連絡してもらいました。「とりあえず会ってみよう」ということとなり、なんと久世コーチ、松田選手お二人にクリニックに訪ねて来ていただき、「十分ではないが、可能な範囲のサポートをしてみたい」と、話し合い、そして僕らの関係がはじまりました。

松田選手の印象は、「一流のアスリートが持つ独特なオーラを放ち、がっちりした落ち着いた青年」です。僕は仕事柄、たくさんスポーツ選手に関わってきました。競技によっては一流のアスリートと呼ばれている選手に実際に会ってみると、人間としてもオーラは感じて、意外にもストイックに体をあたかも武器のように毎日研ぎ澄まして鍛え続けているからこそ出せるオーラを放つ選手は少ないと思っています。これは一流のスポーツマンといってもショースポーツの要素がある競技と、純粋な勝負のみをするスポーツとの差かもしれません。マラソン、柔道、レスリング、陸上選手や競泳等の選手は後者で、実際に会うとオーラをビンビンに放っていることを感じるがありますが、松田選手にはそういった研ぎ澄まされたオーラを強く感じたことを思い出します。

僕等にとって、松田選手をサポートするメリットは、当院は小さなクリニックで、全国規模で仕事をしているものではないので、正直言って広告効果はほとんどありません。でも当院のスタッフに、松田選手という「世界と戦う人間」と関わりあわせることができるという、教育的なメリットがあったと思っています。田舎のクリニックではなかなか超一流のスポーツマンと関わり合うチャンスはありませんから。医療従事者も競争の時代です、生き残りは大変です。一流の医療従事者になるには自己努力、経験が必要ですが「超一流選手に関わったことがある」ということも、将来役に立つ経験なのです。「きっと、松田選手と関わったスタッフにとってすごい体験になるから、」そう信じていたので、当初はとて松田さんへのサポートが僕にとっては喜びでした。

実際にこの2年間は主にリハビリスタッフを様々な形で松田選手と関わらせていただきました。東京、鹿児島、宮崎、アメリカ様々なところにスタッフを派遣しました。もちろんそのたびに出張の交通費、宿泊代、食費、不在による人件費等すべて僕持ちでした。いままで海外研修、派遣等で一度も僕はスタッフに自己負担をさせたことがありません。すべて「きっとなにかをつかんでくれる」と僕が負担してきました。これは間違いだったのかもしれませんが。

これに関しては、今後の人生で役に立つ経験と感じてくれたスタッフもいます。でもそうではないスタッフも多かったです。一度に多額の出張費が発生したライアン・ロクテとのアメリカ・フロリダでの合同練習に帯同したスタッフは退職後「業務命令だった」とまで、弁護士を通じて内容証明を送りつけてきたくらいです。本当にがっかりします。そんな気持ちの人間を松田選手に関わらせたことが申し訳ないくらいです。実際には松田選手にとって、クリニックのスタッフは彼が心から求める人材ではなかったはず。まだまだ彼レベルのトップアスリートをケアする実力が伴っていないからです。それでも松田選手は関わらせてらせてくれました。本当にありがたかったです。でも僕の目標というか、本心はいつか松田選手から、「江本クリニックのスタッフの〇〇さんを帯同スタッフとして貸してほしい」と言われるスタッフが育つことでした。

2年間の結果は「惨敗」でした。一流の人間に関わることができるのは一流になること以外方法はありません。そのための努力を若いと

きにやらなかった人にそのチャンスは訪れないことをわかってほしかったのですが、同じ気持ちではない職員が多いことに改めて気づかされました。そんなことはわかっていたつもりですが、

今年の初めまでは、ロンドンには行かずに、日本で応援するつもりではじめは世界と戦う松田選手のサポートが、なにかできれば、、、僕も「いちスイマーだった」ことから、日本人の、九州人の、何よりも努力し続けた人の金メダルをみたい、

付加価値として、「世界と戦う松田選手にクリニックスタッフを関わらせてもらい、経験させることでリハスタッフに今後の人生に役に立つ、何かをつかんで貰えれば、」そう思った、想い続けた2年間でした。

僕自身が選んだ「松田選手のサポート」というかけがえのない経験をさせて貰えたことは僕の人生の最良の経験の一つだと想っています。

それに反面の経済的負担、人材的負担、精神的葛藤の成果がなんだったのか？松田選手が北島さんの100M平泳ぎの結果を見て「何が起こるかかわからないのが、オリンピックだ、」とツイートしたと聞きました。どんなに努力しても報われないこともあるはず。きっと報われないことの方が多いのでしょう。

でも「センターポールに日の丸を、」それを見たときに松田選手、久世コーチは何を思うのか？僕は何を思うのか？松田さんの4年の努力が実らなかった時には、それを見たときに、僕は何を想うのか？

病院を空けて申し訳ありませんでも、やっぱりロンドンで、オリンピック会場で、自分の目で確かめたくなりました。そして今、ロンドンへ飛んでいます。

戦いは現地時間の7月31日、明日です。

It's time !

